

『田野口藩陣屋日記』の概要

『田野口藩陣屋日記』は、佐久領一万二〇〇〇石を所領としていた大給松平氏が佐久郡三塚村及び田野口村の陣屋、並びに本領移転後の田野口藩陣屋において記した日毎の公記録です。

大給松平氏は元来、三河国加茂郡大給村に本拠を置く大給藩（現在の愛知県豊田市）として、本領の四〇〇〇石のほか、摂津・河内・丹波各国に計一万二〇〇〇石の大給領を所領としていました。そして、宝永元年（一七〇四）に、その一万二〇〇〇石の所領が佐久郡二十五村に移され、佐久郡大給領が成立しました。これにより陣屋が当初は三塚村に設置されましたが、宝永六年（一七〇九）に田野口村に移されました。その後、正徳元年（一七一）に大給藩が額田郡奥殿村（現在の愛知県岡崎市）に本領移転したことにより奥殿藩に藩名を改めましたが、佐久郡一万二〇〇〇石の所領は奥殿領として引き継がれました。そして、参勤交代の規制緩和などの影響により、文久三年（一八六三）に、江戸に近く、かつ広い領地のある佐久郡に本領移転し、陣屋の置かれていた田野口村の地名にちなみ田野口藩と藩名を改めました。また慶応三年（一八六七）には田野口藩新陣屋として洋式城郭である龍岡城五稜郭が竣工しました。

『田野口藩陣屋日記』は、この大給領三塚陣屋及び田野口陣屋、奥殿領田野口陣屋、田野口藩陣屋、田野口藩新陣屋（龍岡城五稜郭）における宝永三年（一七〇六）から慶応三年（一八六七）までの一六一年間の当地の様子を記したものです。日記の内容は、先ず月日と天候を記し、続いてその日の出来事が箇条書きに記されています。主な記載事項は次のとおりとなります。

○検地・検見・年貢・割付・納入・助郷・社寺造立・山論・川論・架橋などの公事

○隠居・相続・分家・縁組・勘当・火災・盗難・傷害などの私事
○洪水・旱害・飢饉・一揆などの公私にわたる無数の事件
日記には欠落した年もありますが、その数は三七二冊にも及び、一大史料群として大変貴重な近世史料として評価されています。このことから佐久市有形文化財に指定され、現在まで守られ続けています。

【田野口藩関連年表】

貞享元年（一六八四）

三河国加茂・額田両郡大給領四〇〇〇石、丹波国二〇〇〇石に加え、摂津・河内・丹波国に一万石が増加され、所領が一万六〇〇〇石となり、大給藩が成立する。

宝永元年（一七〇四）

大給藩領のうち、摂津・河内・丹波国の一万二〇〇〇石を佐久郡に移し、佐久郡大給領が成立し、三塚陣屋を設置する。

宝永三年（一七〇六）

『田野口藩陣屋日記』の記載が始まる。

宝永六年（一七〇九）

佐久領陣屋を田野口村に移転する。

正徳元年（一七一）

本拠地を三河国加茂郡大給村から、同国額田郡奥殿村に移転し、藩名を奥殿藩に改める。

文久三年（一八六三）

十代藩主の松平乗謨が信濃国佐久郡に本領を移転し、藩名を田野口藩に改める。

元治元年（一八六四）

田野口村で新陣屋の建設を始める。

慶応三年（一八六七）

新陣屋（龍岡城五稜郭）が竣工する。

この年で『田野口藩陣屋日記』の記載が終わる。

慶応四年（一八六八）
明治四年（一八七一）

藩名を龍岡藩に改める。
龍岡藩が廃藩となる。